

南国土佐の
自然を背景に
青春の哀歓と
原点をつく
異色ドラマ

題字■中島敬朝

黒木和雄監督作品
原作・脚本■中島文博／撮影■鈴木達夫

茶の渾身



キャスト

沖 楯男	江藤 潤(新人)
沖 ときよ	馬淵 晴子
沖 清馬	ハナ 肇
沖 茂義	浜村 純
上岡 涼子	竹下 景子
中島 利広	原田 芳雄
中島 貞一	石山 雄大
中島美代子	杉本 美樹
中島タマリ	桂木 梨江(新人)
中島 やす	三戸部スエ
服部 菊男	湯沢 勉
服部サカエ	原 知佐子
徳原 市枝	絵沢 萌子
島村ノシ子	真山 知子
良 介	阿藤 海
駐 在	森本 レオ(特別出演)
オルグの男	斎藤 真
大阪の若い男	石津 康彦
ルリ子	瀬畑佳代子
レイ子	夏海千佳子
若いし(A)	下馬二五七
若いし(B)	福谷 強
女の仲仕	中原 鐘子
娼婦ミユキ	芹 明香
信用金庫所長	大塚 弘

企画■多賀祥介
製作■大塚 和
美術■木村威夫
録音■久保田幸雄
協力■高知県中村市
〈カラー作品〉
総映社+映画同人社+ATG提携作品

atg



11月8日(土)ロードショー

新宿伊勢丹前

新宿ビレッジ2 351-3129

演出の言葉

黒木和雄

「竜馬暗殺」で土佐の生んだ英雄坂本竜馬をえがいた私は、奇しくも、再び、土佐の男をえがくことになりました。しかし、この無名の青年の記録は、竜馬とは違って小心翼々として、低空に羽搏くことだけを夢みるという世界です。中島丈博氏のシナリオは、その意味でも面白く、傑作です。つまり、竜馬以前というか、彼等を生んだ土壌そのものというか、そのバイタリテイの原型質とでもいふべきものが、この世界にはしっかりとこめられています。話の軸となるシナリオ志望の青年は純真で、むしろ滑稽ですが、作者は周到なプランのもとにこの青年に投影した「故郷」の全貌を、そこに生きる人間の営みの不可思議さを、あますところなくえがき出しているのです。その観察力のたしかさ、たくまざるユーモアの涌出は、この作品をユニークなものとして観客に印象づけるに違いありません。それは、むしろ作者の個人史にとどまることなく、よりはば広い訴求力と、力強いリアルティにみちた世界を生み出すことになりす。

そして何ものにもまして故郷を形成する人々への、作者のかぎりない情愛に溢れた敬虔なまなざしこそが、この作品の魅力の源泉であろうと思われまふ。そのようにして、祭りの準備、という言葉のもつ響きには、夢見る私達にとって不可欠な、新しい感受性をつねに獲得するための、不断の作業、その営みの哀歓をそぞろ連想させて止まないものがあります。

かいせつ

「祭りの準備」は黒木和雄監督が、維新の青春を描いた傑作「竜馬暗殺」に続いて発表するもので、昭和三十年の初め頃の高知県中村市を舞台に、東京へ出てシナリオ作家を夢みる青年を軸に彼をとりまく多くの人々の生き方を描く青春群像ドラマである。この作品は、「津軽じょんがら節」「赤ちゃん」などで知られる新進脚本家中島丈

博が三年前に雑誌「創」に執筆した同名小説の映画化で、発表当時より、この作品に注目していた黒木監督の強い希望で実現したものの。

南国土佐の自然を背景に、祭りを準備する青年の生きざまが——夢想と現実が拮抗する青年の心と行動が——全く新しい感覚と鋭い観察力で見事に描かれている。

撮影は「とべない沈黙」でコンビを組んだ名手鈴木達夫、音楽は「竜馬暗殺」に引続いて松村楨三が担当。

主人公の楯男には、NHKテレビ「続けたいな人びと」で注目された新人の江藤潤が起用され、涼子役にはNHKテレビ「ふりむくな鶴吉」などで活躍中の学生俳優竹下景子が抜てきされ、タマミ役には桂木梨江。この若手を助けて、「竜馬暗殺」に続いたの原田芳雄、ATG映画初出演のハナ肇の他、杉本美樹、大塚弘、芹明香、馬淵晴子、森本レオ、絵沢萌子などのベテラン、異色俳優が出演している。

尚撮影は、高知県中村市の全面協力により中村市を中心としたオールロケで行われた。

題名について

中島丈博

ゴーギャンの晩年の作品「フェアーイヘイ」(「祭りの準備」から題名をとったもの。しかし、この映画の祭りは、現実のお祭りというよりも、人生に於ける祭りだ。

若者が、生きることの、間の悪さから解放されて、己れの意志のまま思いのたけはばたくこと。男としての仕事に情熱を持ち、絢爛たる恋をし、生を躍動させること。そんなこと、今の世の中で、希み得べきもないかもしれないけれど、若者はそれなりに祭りを夢見る。

何れにしても、人間の一生の間には、一度くらいは祭りの時期が訪れるものだ。ひよっとしたら、今がそうかもしれないけれど、若者はそれには気付かないだろう。彼は自立への願望に、身を焼かれる思いだ。青春期というのは、いつの時代も、祭りの準備の季節なのである。

ものがたり

昭和三十年代初めの頃、高知県中村市とその近郊の漁村の物語りである。

沖楯男(二十才)は、この町の信用金庫の外勤係である。そして、日々、東京へ出てシナリオ作家として身を立てることを夢みている。

ところが、母親のときよは女狂いの夫清馬と別居して、一人息子の楯男を溺愛するあまり離そうとしない。

楯男には心の恋人涼子がいた。涼子は政治運動などに熱を上げており、シナリオを書く楯男にとっては、つねに片思いの存在であった。集金の仕事の単調な明け暮れの中で、それでも楯男はシナリオを書き、自分をとりまく環境を描写しようとする。まず、隣の中島一家、利広青年は暴れ者だ。その利広と兄貞一・美代子夫婦との奇妙な三角関係。利広が家にいる時は、貞一が刑務所に、貞一が家にいる時は利広が刑務所にとりまう次第の泥棒一家なのである。

ある日、中島家の末娘タマミが、発狂して大阪から帰ってきた。

若い衆や楯男のセックスの対象となるタマミの帰郷。楯男は涼子へのかなわぬ恋の失意の中で、タマミと寝てしまふ。しかし、夢見るシナリオ青年にとってそのセックスもはたして現実の行為であったかどうか、判然とはしない。

そんな時、楯男は祖父の茂義がタマミと同棲生活をはじめたことを知って驚ろいた。そして、タマミが妊娠した。子供の父であると名乗り出る茂義。

タマミは無事に子供を生んだ。そして驚ろいたことには、その途端にタマミは正気にかえったのである。老いらくの恋に狂う茂義は、タマミにとつてもう無縁の人でしかない。茂義を激しく嫌悪するタマミを見て老人は首を吊った。

一方、清馬をめぐる後家の市枝やノシ子の女の争いが起った。そのノシ子の突然の

原作・脚本 ■ 中島丈博
撮影 ■ 鈴木達夫



黒木和雄監督作品

祭りの準備

＜カラー作品・上映時間 1 時間56分＞
綜映社+映画同人社+ATG提携作品



死。清馬は楯男たちの家に帰ってくるが母親のときよは許さない。楯男と二人だけの世界を崩そうとしない。結局、清馬は市枝のもとへと去っていく。

そんな時、オルグの男に捨てられた涼子が、楯男をセックスに誘う。涼子への夢が破れて楯男は、ときよを棄て、一人東京へ旅立つことをやと決心する。その朝の何も知らぬ母親との別れ、途中、赤ん坊を抱いたタマミに会う。「楯男ちゃんに似ちるように思うけん」と微笑むタマミ。駅の待合室で楯男は、殺人容疑で追われている利広に出合った。

「バンザイノ、バンザイノ」殺人者利広一人の歓声に送られて、楯男はこの住みなれた故郷中村市をようやく逃げ出すように出発して行くのである。